

「つなぐ」研修をめざして ～臨地研修の紹介～

みなさんはオオタカという鳥を見たことがありますか？私が学生だった二十数年前、この鳥は希少種とされており、山地ならともかく、都市部で見かけることはめったにありませんでした。ところが、最近は住宅地のど真ん中で狩りをしたり、人家の近くで巣作りをしたりする事例がみられます。現に我が家の近所にもいますし、学校の上空を飛んでいることもあります。

いったいなぜ？どうやら彼らは、この何十年かで都市の環境に適応してきたようなのです。都市部にはドバトやムクドリなど、餌になる鳥が多く、最近ではカラスまでが彼らの食卓にのぼっています。あとは巣作りができる森さえあればいい。

このままではジリ貧だ、と思ったかどうかはわかりませんが、彼らは「変わる」ことで生き残り、分布を広げてきたのです。

学校現場もまた、二十数年前とは大きく変わっています。不易流行一本質的なものは大切にしながら、不断に変わり続けることが、私たちに求められていると思います。時間に余裕のある夏休みは、視野を広げ、見聞を深めるチャンス。そこで、生活科・総合的な学習の時間研究会では、毎年会員を対象に実施してきた夏季研修に加えて、市・区の連携を深める取り組みの一環として、今年からいくつかの区で臨地研修を共同開催しました。事後のアンケート結果からは「いろいろな区の先生方と交流できた。視点がいろいろだったので、面白かった」「合同で開催することで連帯感が持てる。また役員の負担も減る」といった感想が寄せられ、「市研と区研、区研と区研をつなぐ」というねらいにつながる手ごたえを感じています。

ここでは、各区の部長さんたちが臨地研修の内容を紹介します。「いいね」と思ったら、ぜひ来年度の参考に！（文責 矢野）

南区・戸塚区 藍のたたき染め・フィールドワーク
こども植物園・環境活動支援センター

こども植物園で、藍のたたき染めの体験と施設説明を聞きました。たたき染めはなかなか色が出ず、難しかったのですが、しっかり染まるときれいな藍色が出て、よいお土産になりました。

環境活動支援センターではフィールドワークを行いました。自然の中から宝物（落ち葉や枝、木の実など）を見つけたり、子どもと一緒にできる活動を教えていただいたりしました。

生活科や総合で行うならどのような活動がよいか、みんな考えながら活動することができました。



磯子区 プログラミング入門
はまぎんこども宇宙科学館

学校に配布されている iPad に入っている「プロゼミ（プログラミングゼミ）」というアプリを使って研修をしました。プロゼミには、プログラムのコードをパズルのように組み合わせるキャラクターを動かす「パズルモード」や、ループ・条件分岐・変数などを組み合わせる「あつめよう」などのモードがあります。

アプリの中のキャラクターを自分でプログラミングした通りに動かすことができるかどうか、いろいろ操作しながら、ゲーム感覚でプログラミングを楽しめることができました。いろいろなレベルに合った内容があるので、どんな子でもできるかと思いました。

このアプリは、iPad の台数が確保できれば学習で使えると感じました。1人1台が理想ですが、2人で1台で操作しても、大丈夫かと思えます。色々考えてみるより、「まずは動かしてみる」ということを学びました。

鶴見区・神奈川区・中区 身近な課題から SDGs へ
みなとみらい地区・みなとみらい本町小学校

みなとみらい地区のシテウォークへ行った後、横浜市政政局の関口さんからお話をうかがいました。

後半の富士通エフサス・岸本さんによるワークショップでは、カードを動かしながら子どもたちに身につかせたいことや横浜市の課題、SDGsがどのようにつながっていくのかを考えました。それぞれのつながりを考えることで、日ごろ生活・総合の時間で行っていることが SDGsともつながっていくことを視覚的にもとらえることができました。

関口さんのお話やワークショップを通して、普段の視点とは少し変えて物事を見る大切さを学びました。

また、3区合同だったため、いろいろな先生方と様々な視点で話し合いながら、自分たちの見方・考え方の視野を広げることができました。



瀬谷区・泉区・旭区・保土ヶ谷区 サカタのタネ栽培研修
大門小学校

サカタのタネの清水さんに、栽培活動・土づくりについて分かりやすく説明していただきました。なぜ間引きが必要か、連作がよくないかなどがよく理解できました。また「ただ How を教えるのではなく、ちゃんと Why も教えてください」と指導する上で大切なことを教えていただきました。

後半は畑に出て、道具の扱い方や畝の作り方を体験しました。実際にやってみることで、子どもにどんな声をかけたらいいのかイメージすることができました。また「植物は人間の足音を聞いて育つ」という言葉が印象的でした。

じっくりと愛情をこめ、何度も足を運ぶこと・植物のことを理解し、環境を整えてあげることで、これが栽培活動の成功につながることを学びました。



港北区 鶴見川の自然と防災
鶴見川流域センター

港北区生活科・総合の学習の時間研究会では、鶴見川流域ネットワークの職員の方に、鶴見川流域全体における自然環境の保護や防災の試みについてお話しいただいたあと、実際に川の中に入って、鶴見川の亀甲橋のもとで生き物採集を行いました。参加された先生方もみな目を輝かせて、童心にかえって生き物を採集しました。

きれいな川に生息するアユやモクズガニがとれ、歓声があがりました。

子どもの立場になって、鶴見川の自然やそれを守る取り組みについて考えるきっかけを与えてもらった研修でした。



緑区 草花遊び
にいほる里山交流センター

竹笛、お歯黒、くずのシャボン玉、笹のおもちや等、自然のものを使ったものづくりの研修です。誰もが熱中して体験をしていました。みどり遊楽舎のボランティアの方の話真剣に聞いて、遊びに取り組んでいました。作品ができた時には、嬉しそうにしている様子が見られました。

ボランティアの方が「手先を使うことで、脳を動かすことができる。また、自然物は諸感覚を働かせて遊ぶことができる」とおっしゃっていましたが、体験を通してそれを実感することができました。



西区 帷子川の生きものたち
帷子川・平沼小学校

ココペリプラス代表・寺田さんを講師にお迎えして、「西区の河川について知ろう！～帷子川・石崎川・新田間川の生きもの～」を開催しました。

「汚なそう」「生き物なんているの？」というイメージが持たれがちなの、横浜駅付近の河川。しかし、実は多様な生き物が住む河川だったのです。生息している生き物を見せていただいたり、水質調査などからの授業展開を指示いただいたりしました。生活科の学習にも生かせる部分があり、大変興味深い研修でした。

「西区に勤めて長くなるが、こんなに近いところに材があるなんて知らなかった」「子どもとの活動で様々な可能性を考えられた」といった感想が寄せられています。



栄区・港南区・金沢区 諸感覚を使った自然観察
横浜自然観察の森

横浜市の南部、鎌倉市との境に位置する横浜自然観察の森には、様々な生き物がくらしています。自然観察センターには日本野鳥の会のレンジャーが常駐しており、自然に関する調査・教育機能も充実しています。

レンジャーの尾崎さんに危険な動植物についてのお話をうかがった後、班ごとに森へ入って観察し、もどってきてレンジャーさんを囲んで質疑応答を行いました。また、原っぱでバッタをつかまえ、誰のバッタが遠くに跳ぶか競争するなど、童心に返って楽しむ姿もみられました。

視覚・聴覚・触覚など諸感覚を使った観察を通して、自然を見る目、見方が変わることを実感しました。



都筑区 郷土の歴史を学ぶ
横浜市歴史博物館

都筑区の昔の絵地図をもとに、今の地形と昔の地形を比べながら暮らしの変化について考えました。勝田村や牛久保村など、まさに学校の名前にもなっている村が昔からあり、当時の交通や産業と今の様子を比べながら学習することができました。

また、都筑区ならではの遺跡や昔遊びなど、学習材として活用できる例をあげていただくことができました。

直接授業に生かすことができない場合にも、都筑区の小学校で働く教師として、知識としてもっておくと武器になる話をたくさんしていただくことができました。



青葉区 思考ツール・カリキュラムマネジメント
谷本小学校

指導企画課・飯島尚美指導主事による講演会「指導要領・カリキュラムマネジメント及び、思考ツールPMIシートを使用したミニワークショップ」を行いました。

実際のアンケート結果をPMIシートで整理し、改善点を考えていくというワークショップでは、PMIの表があることで、問題点が整理され、焦点を絞った改善策を考えることができるということが、実体験を通して理解することができました。さらに、改善点を次の授業につなげていく方法もわかり、参加した先生方からは「これからの授業に活かしていける」と非常に意欲的な感想が聞かれました。

<PMI>

ものごとの「PLUS:いいところ」や「Minus:悪いところ」を見つけたり、「Interesting:面白いところ」は何かを考えたりするときに使う思考ツール。

P	M	I

夏季研修 参加者の声

- ・横浜の課題、世界の課題に子どもたちと一緒に向き合うことのできる、生活科・総合的な学習の時間は改めて素敵だなと思うことができました。
- ・関口さんの横浜市での行政の課題から、具体的に活動していらっしゃるナカヤさんのお話、論理的思考を引き出すプログラミングをわかりやすく教えていただいた83歳の若宮さんのパワー、盛り沢山のメニューで楽しく研修させて頂きました。岸本さんのお話は、毎回勉強になります。
- ・3人の方のお話を聞いて、「誰かのために何かをしよう」という思いで動き出すことの重要性を感じました。今の状況を変えたいとか、何かしなきゃという思いは誰もがもっていると思います。それをどう実現するのか考え、行動にうつすことを始めようと思いました。
- ・市の社会構造変化の背景・要因やローズプロジェクト、プログラミングの具体等、内容は興味深かったです。それぞれが関連付けられる内容ではあるのですが、全体の約2時間聴き続けることになり、少々長いかと。いずれかの内容にしばって、講演とワークショップ等になれば。
- ・単元を作るときに、市の課題やSDGsまで全く考えは至っていなかったことがわかりました。ローズプロジェクト、ぜひやってみたいです。お話を聞かせていただけたらうれしいです。
- ・よく材を作成するのにマッピングをするのですが、このような形からのしぼりこみ、世界（SDGsなど）につなげられる論理的な考えを整理すること、大切にします。1年生でもできますよね。
- ・授業で取り扱うことが、市全体の課題につながるという意識が深まった。ふだん「地域」どまりであるが、地域が市全体につながっていることを知ることができた。教師は毎日がんばっているけれども、狭い視野の中で行っていると、周囲、社会に理解されにくい（不祥事ばかり取り上げられがち）。こうして企業や社会とつながることで、アイデアをいただけるだけでなく、理解していただく、自分たちの視野を広げる、考え方の広がりが増やす…全て子どもへのかかわりにプラスになるとばかりだと思えます。オープンイノベーション、すてきです。
- ・自分が子どもの頃と比べて社会が変化していることから、学校で子どもたちに身につけさせたい力もまた変わってきていることは感じていました。しかし、現場だけでは今の社会の実態を扱うことは難しいので、色々な企業や人々と関わっていることの重要性を改めて実感しました。
- ・本校がこれまでに積み上げてきたこと、これから変わっていくと模索していること、それらがいかにも意味のあるものなのかという価値付けができました。ナカヤさん、若宮さんの実践からは、勇気をもらいました。「いまわたしにできること」早速行動に移したいと思えます。

他にも多数のご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございました。



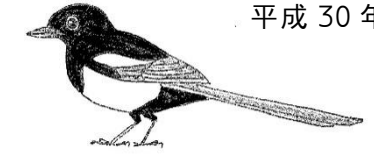
はまみらい、探しています ～あなたの学校にありませんか？～

はまみらいは明るいサーモンピンクの大輪でよい香りがするバラです。花びらが外巻きになるのも特徴です。開港150周年を記念し、市内の小・中学校に苗が贈られましたが、今では所在がわからなくなった学校も多いと思えます。

市花・バラを軸とする市民参加型アクション「横浜ローズプロジェクト」では、市内の公立小学校に苗を贈る「はまみらい栽培を通した学びづくりプロジェクト」を立ち上げました。そのため、現在のはまみらいがある学校の情報を求めています。それらしきバラがあれば写真を撮って送って下さい。連絡をくださった学校には、開発中の「はまみらい折り紙」を贈呈します。はまみらいであれば、栽培の参考資料もお届けすることができます。また、はまみらいがなかった学校で、欲しい・授業に使用したいと思う方も御連絡ください。連絡先：横浜ローズプロジェクト事務局 (株)Bonheur ナカヤ タエ様 info@la-bonheur.co.jp

第1号 連携クイズの答え

- 1 カササギの学名は？ ② *Pica pica* (① *Gorilla gorilla* はゴリラ、③ *Mola mola* はマンボウ)
- 2 こどもの国の前身は？ ③ 弾薬庫 (陸軍の弾薬製造貯蔵施設。戦後は田奈弾薬庫として米軍が接收)
- 3 神奈川区の花は？ ② チューリップ (③ ラフレシアの花言葉は「夢現(ゆめうつ)」)
- 4 肥田牧場があるのは？ ③ 戸塚区 (① 瀬谷区にあるのは相澤良牧場)



かけ橋をわたって

副会長 武山 朋子

今年の夏は酷暑に見舞われ、「原則運動禁止」の日が続きました。にもかかわらず、「子どものいない夏休みだからこそ」と普段はできないような研修に熱心に参加する、多くの先生方とお会いできた夏でもありました。

私は、横浜市こども植物園で藍のたたき染めを初めて体験しました。藍は春から種をまいて育てることができること、発酵させた藍染めではなくても、生葉を使って簡単にたたき染めができること、成長した大きな葉より若い新芽のほうが色が良く出ることなどを初めて知りました。南区と戸塚区の合同研修として実施されたこの研修には、多くの参加者があり、暑い夏の充実したひと時となりました。

この研修の実現に大きな力を発揮したのが、今年誕生した「連携部」でした。

各区の研究会は、学校にいちばん身近で頼りになる場所で大切なところ。とはいえ輪番制で役員や研修担当が決まる場合も多く、「参加できてよかった！」と多くの方に思っていただけの研修のために企画を練り、場所を選定し、担当者と交渉し、実施計画を立てて実行する、というのはたいへんなことです。それをサポートできたらと、連携部のメンバーが早い時期から動きだしました。そしてこのおたよりのタイトル「Pica pica～カササギ」に込められた思いの通り、かけ橋となって市研と区研、区研と区研をつなぎ、それぞれの地区での研修を実現できたのです。

次は、かけ橋をわたり、研修の場で新しいひと、もの、こと、と出会ったみなさんが、その出会いを子どもたちの新たな出会いへつなげていってくださることが、私たちの願いです。

書を捨てよ、町へ出よう ～夏季研修を振り返って～

連携部長 矢野 達也

横浜市の人口はどのくらいか、知っていますか？答えは約374万人。全市町村の中で最多です。では、これほど多ければ少子高齢化の影響は小さい？答えはNO！市の人口は来年から減り始め、高齢者の割合は増えていきます。これに加え、家族構成の変化、雇用の不安定化など、社会構造も激変。行政だけでは対応に限界がある中、PTAも含めた地域活動の担い手もいなくなっている…。

すぐそこに迫る課題を、人口統計という具体的なデータを駆使して解説してくれたのは政策局の関口昌幸さん。それは、近年私たちが学校現場で感じる諸々の課題を裏付けるものでもありました。

行政には頼れない。地域の力も弱まっている。ではどうすればいい？そこで関口さんが提示したのが「リビングラボ Living Lab」という新しい地域活動のしくみです。これは「住民が企業や行政・学校・NPO等と連携しながら課題を解決する活動(の場)」を意味します。その事例として、ナカヤタエさんにご紹介いただいたのが、市民・企業・NPO・学生などが連携しながら、市花・バラにまつわる様々な活動を活性化する「ローズプロジェクト」です。

アプリ開発者の若宮正子さんからは、プログラミング教育についてお話いただきました。自分で作ったプログラムが思った通りに動き、それが周りにも喜ばれたら嬉しいですよ。また、プログラミングは創造的であると同時に、論理的思考力・問題解決能力を育てる格好の場でもあります。

最後のワークショップでは、横浜の課題と『横浜の時間』のテーマを結び付け、SDGsの目標も視野に入れて単元づくりをしました。ファシリテーターの岸本さんからは、「鳥の目で全体を俯瞰しましょう」との助言をいただき、身近な課題もSDGsにつながることで実感できました。

私たちはともすれば、日々の仕事に追われながら、学校の中だけで考え、行動しがちです。しかし、もうそんな場合ではない。生活・総合に携わる私たちこそが、学校を出て外の世界を知り、今以上にまちの人や関係機関とつながっていかねばなりません。そんな危機感と使命感を共有できた研修でした。—書を捨てよ、町へ出よう！